

# 『愛する妻“あかさん”へ』

三重県桑名郡木曾岬町 大城可笑駒

ありがとう。いま何より“あかさん”に贈りたい言葉だ。“あかさん”とは妻の呼び名である。

現在抗がん剤治療中の身である私は、2018年6月ジスト（消化管間質腫瘍）という悪性腫瘍を胃に発病した。突然の大量下血、大きさ10センチと大変な状況のなか幸いにも手術できた。悪性度が極めて高いため抗がん剤も手術後間もなく始まった。しんどい治療を続けたにも関わらず、2019年4月肝臓に転移。別の抗がん剤治療を続けるいま、病状は一進一退である。はっきりしていた転移部分が不明瞭になったかと安堵する一方、他の部分に転移らしきカゲが新たに出現し気が滅入る。味覚障害もあり、からい・しょっぱいが分かりにくい。口角が切れる。手の平や足の裏の皮膚がただれる・硬くなるなどで、ペットボトルの蓋を開けづらい、足の裏が痛

く歩きづらい。程度に波があるものの抗がん剤の副作用に日々苦しめられている。

さらに私の抗がん剤は食べ物も容赦なく制限する。例えば柑橘類だ。我ら夫婦は大のミカン好きである。いつの頃からなのか思い出せないが田原のミカンにも随分とお世話になってきた。甘くいい味は舌が覚えてる。しかし私はいまの治療を続ける限り、このミカンを口にすることは悲しいかなもうできない。

それでも私は生きているし、どんな状態であれこれからも生きていきたい。生きることを頑張れるのは傍で支えてくれる妻のおかげである。胃がほとんど無い中での食養生、非常勤の仕事を続ける上で車による送迎など数え上げれば切りが無い。しかし差しで直接には中々感謝を伝えられない。気恥ずかしくて。

だからここで声を大にして叫びたい。私が生きられるのはひとえにお前のおかげだ。今年結婚30周年。“あかさん”愛する妻よ、ありがとう！